



# ネイチャーなら

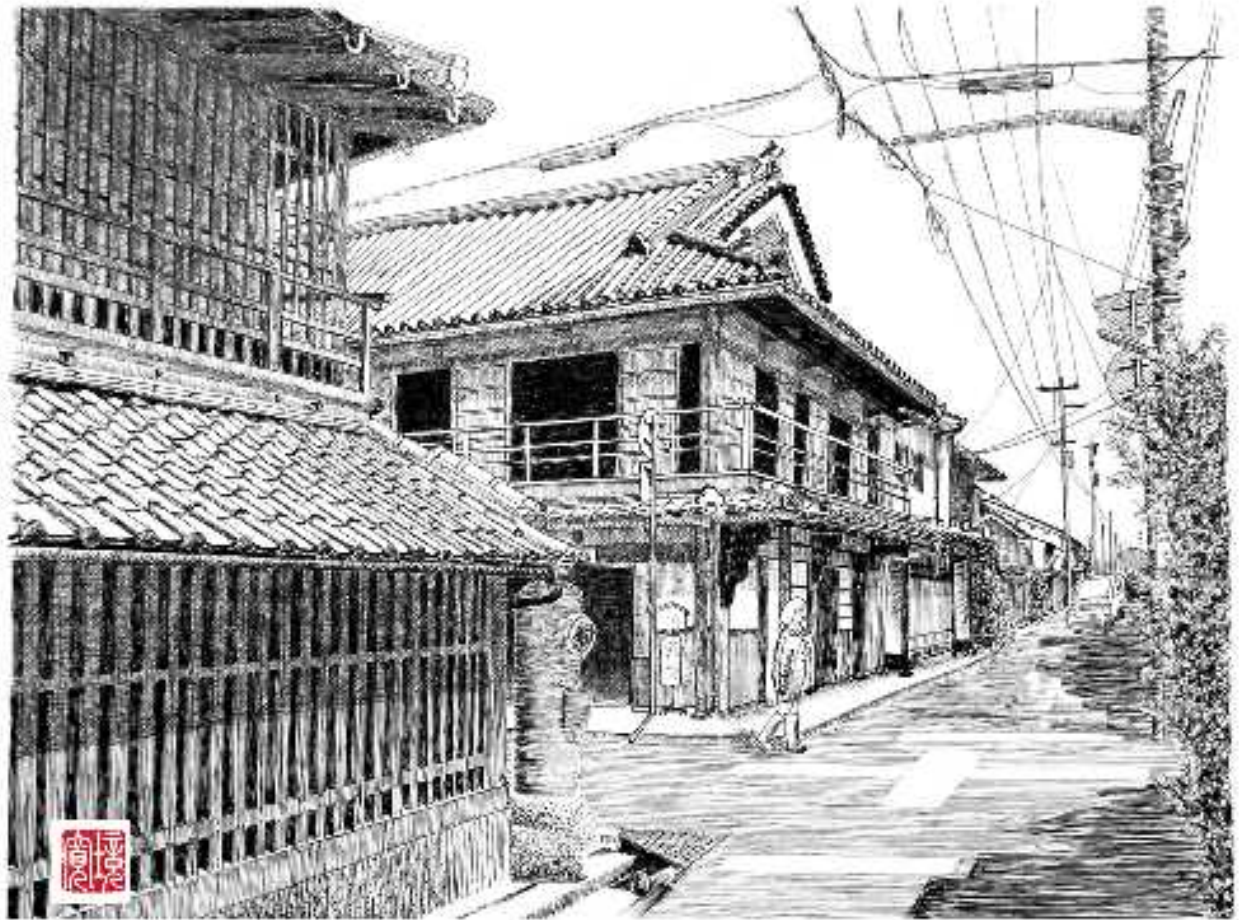
《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2014年10月1日

10月号・第153号

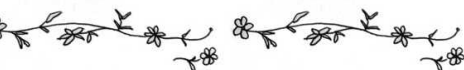
奈良・人と自然の会

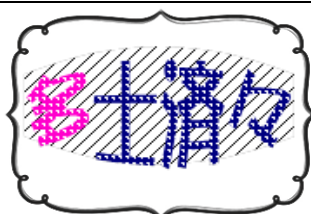
会長 藤田 秀 憲



## Contents

多士済々.....	①	俳句百景.....	⑨
Monthly Repo.ならやま.....	②	癒しの散歩道&ならやま茶論.....	⑩
里山の今.....	③ ④	ならやまプロジェクト(10月).....	⑪
自然教室チームだより.....	⑤	行事案内①.....	⑫
やさしい病害虫講座⑥.....	⑥	行事案内②&仲間入りしました.....	⑬
「鳥」シリーズ.....	⑦	行事案内③&奈良学クイズ.....	⑭
青垣春秋.....	⑧	幹事会報告・ペン画に寄せて・編集後記.....	⑮





若さ一杯・昆虫博士

菊川 年明さん

顧問 阿部 和生

ある日、完璧なサイクリングの服装に身を固め素敵な自転車に乗った若者が、ならやまベースキャンプに来てくれました。近寄って話しかけました。柔らかなメガネの下の笑顔は、菊川年明さん・その人でした。普段の「ならやま活動」の服装や昆虫採集の時と違い、ヘルメットからつま先までスキッと統一され、すっかり見間違ってしまったものです。エッ菊川さんですか？と驚き、話していますと遠出の時は、滋賀の信楽・京都の嵐山くらい、ちょいちょいは、淀や八幡の背割り堤、等などと涼しい顔です。自転車ですと「あっ珍しい植物がある！」「久しぶりに見た昆虫だ！」等と言う時 簡単に止まれて観



近影のスタイル ▲

察できるのですよと、事も無げにおっしゃり、無精者の私は度肝を抜かされた記憶があります。専用のサイクリング車にまたがって起伏のある道路を何十キロも走るな

んて想像もしていなかったのですもの。

あれから何年過ぎたのでしょうか、今も変わらず興が乗ると出掛けられるそうで、少しも年をとらない素晴らしい健康をお持ちで維持しておられます。菊川さんは、この「ならやまフィールド」をこよなく愛されて、昆虫・野鳥・植物と時間を作られては、散策彷徨(?) 観察を欠かされません。探究心旺盛な日常は誰も真似のできないものではないか…といつも思います。平成21年に作成した「ならやまの四季」パンフレットや同調査報告書はそうした

日常からの撮影ストックのネガが原資料となり古川さん他のご協力の下で完成しました。内容のある調査書として若干の修正を加え、CDに収められ今日も高い評価を得ています。

お聞きしますと、そうした動植物の観察等は社会人になられてからも本業と両立して続けてこられたようですが、あくまで趣味の範囲だそうです。しかしその深い造詣にはいつも驚かされます。毎月の会報誌原稿をご覧の皆様もご存知の博学です。

活動日や各種研修会へも積極的に参加され、労力を惜しまぬ真面目さは際立った方です。何かとお尋ねする事が多いのですが、きちんとご自分の考えを話して頂ける貴重な存在です。幹事として活動して頂いた時には、定例幹事会の「部屋予約」を黙々とやって頂いたことは、忘れられない記憶です。いつも「申し訳ない」と思いつつ甘えてしまっていた事を思い起こします。 日常は決して声を荒げない優しいお話しぶり、でも気骨のある信念をお持ちで、持論をお話しになる様が、矛盾しているようで調和



があります。

毎年のならやま催事で、あるいは校庭観察会での「昆虫博士」は、既に引き出し一杯の学識をお持ち

でありながら、前日まで詳細に下見をされているといった几帳面さです。そうした事が名解説をなされる秘密なのでしょう。少女が「カナヘビ」を見つけ菊川先生に見せに来ました。手の上のカナヘビは、とてもきれいな色をしていてほほえましい会話が交わされました。 矍鑠たるお身体をこれからもより一層大切に頂き、後輩会員や子供たちの指導をよろしくお願ひします。

## Monthly Rep ならやま

8月24日(日) 曇りのち雨 40名+30名

「夏だ! 休みだ! 里山に行こう!」のイベントを実施。前日の土曜日に実施予定であったが、天気予報で降水確率70%と報道されたため、自動的にイベントは一日延期となった。天気予報は見事にはずれ、23日の方が天気は良かった。残念無念。

8月28日(木) 雨のち曇り 14名

前日の予報では降水確率は20%であったが、朝から雨がしとしと。またしても、予報がはずれて活動は中止。

8月29日(金) 曇り一時晴れ 31名

前日、雨で活動が中止になったので、臨時活動日として作業を開始。参加者が少なかったので、十分な活動は出来なかった。

里山Gは、里山林で枯死木の処分。カシナガ脱出防止トラップの効果調査。

エコファームGは、果菜類の収穫。今年はナス・ピーマンの収穫が順調。カボチャ畑の後始末。

景観Gは、第5地区・BC周辺の除草。センニチコウ花壇の整理。ウメのケムシ防除。

第5地区でヒマワリ跡地に、トラクターを入れるため、畑地内の石ころ除去。ソバの播種。

9月4日(木) 雨降ったり止んだり 54名

里山Gは、ならやま自然林内の観察路沿いに、倒木・枯死木・掛かり木の処分。

エコファームGは、ダイコン・ハクサイ・ヒノナの播種。秋ジャガイモの植え付け。

景観Gは、彩の森の除草とソバの播種。皇帝ダリアの除草と支柱たて。ジャーマンアイリス花壇の除草。

池の水生物調査。

9月11日(木) 晴れ 57名+14名

今日から通常の活動時間に戻る



里山Gは、ならやま自然林内の観察路整備。薪小屋の屋根づくり。

エコファームGは、ダイコン畑の

整地と播種。ナスの切り戻し剪定。ナスクラブに感謝!

景観Gは、彩の森・池・ジャーマンアイリス・皇帝ダリア、各周辺の除草。

第4番目の倉庫テント設置のため、用地の整地。

9月18日(木) 晴れ 61名

里山Gは、自然林内の観察路の整備を完了した。カシナガのトラップ調査。

エコファームGは、ゴーヤ・モロヘイヤ畑の後始末。ダイコン・ハクサイ・チンゲンサイの播種。



出揃ったダイコン苗の間引き。

景観Gは、第3駐車場・彩の森の除草。

コスモス花壇の後始末。池の水生物調査。

第4番目の倉庫テントが完成。BC横の簡易テント内の整理整頓。



近日中に第3駐車場にバラスを入れる予定。

(記: 木村 裕)

**ならやま花だより**

吉村 さつき

**里山の今**

**ペタキン日記 29**

羽尻 嵩



9月11日(木) 道路脇にはつる性のマメ科クズ属の多年草クズ(別名 裏見草)が繁殖しています。真夏には1日に1メートル程も伸びるそうです。全体に褐色の細かい毛があり、葉は三出複葉、小葉は幅広く大きく葉の裏は白色を帯びています。小葉の付け根に膨らんだ部分がありこれが向きをかえる機能を果たします。葉の裏面を太陽に向け光を反射し水分の蒸発を防ぎます。花は8~9月頃に咲き穂状花序で下から上へと咲いていきます。濃紺紫色で甘い香りがします。花後は枝豆に似た扁平な果実をつけます。つるを発酵させ取りだした繊維で葛布や根を用いて葛粉や漢方薬が作られます。「女郎花・尾花(ススキ)・桔梗・撫子・藤袴・葛・萩」と秋の七草の一つです。「おすきなふくは」と覚えると七草が直ぐに出てきます。



クズの花



クズの葉裏

「草花」ススキ、ヌスビトハギ、アレチヌスビトハギ、クズ、タカサブロウ、オオバコ、ヒナタイノコズチ、ヒカゲイノコズチ、ニガナ、ツリガネニンジン、チヂミザサ、アキノノゲシ、ヘクソカズラ、ヒヨドリバナ、エノキグサ、キツネノマゴ、ゲンノシヨウコ、カナムグラ、ミズヒキ、アメリカセンダングサ

「花壇」シュウメイギク、ヒガンバナ、リコリス、コスモス、ハナトラノオ、モミジアオイ、ハマオモト、ホトトギス、ハナショウガ、センニチコウ、トケイソウ、サンジソウ、ムラサキツユクサ、オミナエシ、キキョウ、フジバカマ、ホシアサガオ

「ビオトープ付近」キクモ、ミズオオバコ、ミゾソバ、ヤブツルアズキ、ツルマメ、アメリカミズキンバイ、ナガバオモダカ、タケトアゼナ、ボントクタデ、イヌタデ

今年の夏を振り返って。

(1) 池の水質状況… アオミドロ繁殖は例年のようにどの池でも見られたが、泥の蓄積は例年に比べ、多少減ったようにも思う。

池に水が流れてくる溝に生えてくるクワイとミゾソバなどの水辺の草を刈り取らなかったことなどが、池の泥を多少減らしたのかもかもしれない。

クワイの水質浄化効果を確実に確かめるため、来年は冬場にクワイの種を池に植え付けて、ザリガニに切り取られる前に根付くようにしておきたい。

(2) タナゴ池の魚介類… ならやま在来のミナミヌマエビ・スジエビはうじゃうじゃいる。ドジョウも増えてきている。あとは、アメリカザリガニやカワニナぐらいかな。魚類の多様性がないのは環境の制約によるものだが、今のところどうしようもない。

近大班からあずかって育てているニッポンバラタナゴは今年も順調に増えているし、このペタキンの友達のタガイも元気だ。ただ、シマヒレヨシノボリは、タナゴ池では全く姿を見ていない。このヨシノボリが増えない限り、タガイは増えないので、ペタキン育種はまだまだ道半ばである。

(3) 池周辺の草刈り… 8月末から猛烈に繁茂する様々な草の刈取りは、タイミングを逃すと後が大変だ。特にツル植物はまだツルがやわらかく伸びきらない時期に刈り取らないと、草刈りを大いに妨げることになる。昨年の反省から、今年は早めに草刈りを始めた。この結果、昨年に比べ、労力は3分の1ぐらいに減らすことが出来た。

＜草刈り後のビオ園周辺。手前がクワイ＞



**ヤマキマダラヒカゲ** 菊川年明

クヌギやコナラの幹から樹液が出ているところにはカブトムシ、クワガタムシ類、カナブン、スズメバチ類がよく来ているが、黄褐色の中型のチョウもよく見かける。このチョウは、以前はキマダラヒカゲと名付けられていたが、このチョウは酷似した2種類のチョウであることがわかった。この2種類のチョウは人間に喩えれば一卵性双生児のようによく似ていて、その違いは簡単にはわからない。

2種類ということがわかってからは主に平地や低山に棲む方をサトキマダラヒカゲ、主に山地に棲む方をヤマキマダラヒカゲと名付けられた。ならやまでこの種のチョウを見かけると、どちらの種類かなと注意して観察していたがサトキマダラヒカゲばかりで、ヤマキマダラヒカゲを目にするのはなく、それが長く続いたので、いつしかならやまのような平地近辺の丘陵にはヤマキマダラヒカゲは棲んでいないと思うようになっていた。

ところが、8月の下旬のある日、観察路の東端に近いところで、薄暗い山中の地面近くを飛ぶキマダラヒカゲがいたので、まさかと思いながらも写真に撮り、観察するとこれがヤマキマダラヒカゲだとわかった。念のため樞原市昆虫館へ写真を送って同定してもらったら、やはりヤマキマダラヒカゲということだった。その後オオタカの辻の近くでもヤマの写真を撮ることができた。どうも山中の樹木の茂みにいるようである。

下の写真は、左がヤマキマダラヒカゲ、右がサトキマダラヒカゲである。○で囲んだところの斑紋が微妙に異なる。しかし、飛び回っている状態では区別はむづかしい。ヤマキマダラヒカゲを見つけたことで、自分なりにカウントしているならやまのチョウ類は1種増えた。



**パトロール班 レポ** 山本隆造

ならやま自然の森でナラ枯れの拡大が懸念される。小羊歯の辻から104ピークの尾根筋を経て処理施設手前のサイクリングロードに至る観察路、オオタカの辻から谷の出合、佐保自然の森方面へ抜ける谷道などで、葉が完全に茶褐色に変色したコナラが目立つ。また観察路沿いで今は葉が青く枯死はしていないが、株元にフラス(虫糞と木屑が混ざったもの)が見られ、カシナガの侵入が認められる木が数多く観察できる。

そんな中でちょっぴり朗報。カシナガの侵入を受けて枯死を免れた木は、次年度以降、再度カシナガの侵入を受けても、枯死する確率は低いとのこと。木の内部がカシナガの繁殖に適した環境ではなくなることが原因だという。自然の森観察路沿いでカシナガの侵入は認められるが、今現在生きている木を見守っていきたい。「来年も元気に芽を出してや・・・」と話しかけながら。



オオタカの辻付近のカシナガ侵入木  
(今は手前、奥とも葉が青く生きている)

ならやま自然観察路は、今年に入って3月の自然観察会、5月連休と夏休みのグリーンギフトプロジェクトなどで活用され、会員の皆様に広く知られるようになってきた。観察路の整備にかかわるパトロール班の一員として嬉しい限りである。会報誌で紹介してきたが、ならやま自然観察路は4コースあり、ならやま里山林、自然の森を広くカバーしている。

パトロール班では作業日の午後、第1から第4のいずれかのコースを交代でパトロールしています。時間を見つけてお声掛け下さい。ならやまの森の自然の素晴らしさを一人でも多くの会員に味わっていただければ幸いです。

## 自然教室チームだより

### 佐保台小・昆虫観察会 実施報告

9月10日(水)、佐保台小学校の放課後教室の行事として昆虫観察会を行いました。

低学年の子供達を中心に約40名、関係スタッフ6名の応援、当会からは9名のスタッフが参加し、第1部は校庭での昆虫採集、第2部では図書室での獲物の観察と昆虫クイズを実施しました。

1週間前の下見ではバッタ、トンボなどの姿があまり見られず子供達に満足してもらえないかなと心配していました。しかし当日は子供達がワッと草むらに飛び込むと沢山のバッタがバッタ!バッタ!と跳びだし、予想以上の成果がありました。たくさんの網に追われ、逃げ回っていたトンボやチョウもあえなく御用となりました。



アゲハ、ジャノメチョウ、ヒョウモンチョウ、ウスバキトンボなど空を飛び回るものの他、大型のショウリョウバッタやトノサマバッタも捕らえられ、虫籠は過密状態となっていました。

昆虫クイズでは、チョウとガの区別、イモムシの目玉は何処にあるかななどの課題で班対抗の競争をし、大いに盛り上がり賑やかこのうえない状態でした。マイクを使っても声が十分に届かず苦労しましたが。

天候に恵まれたことと、虫が多かったことで子供達には楽しい一時であったことと思います。  
(木村 裕)

### 矢田丘陵・秋の植物観察会 実施報告

9月16日(火) すっきりとした秋空のもとに14名の方々が参集して、矢田丘陵・秋の植物観察会を実施しました。

すっかりおなじみになった御宮知先生のポイントをついた、またユーモアあふれる説明で、たくさんの植物を楽しみました。植物だけでなく、なんとマムシまでその姿をじっくり見せてくれました。

スタートに当たって先生の注意はとにかく五感を使って観察すること、中でも実際に手に取ってよく見ること、そしてよく似た植物同士を比較対照しながら観察することでしたが、早速足元のツユクサを実際に手に取りじっくり見てびっくりしました。あの小さな花の中に3種類のオシベがありました。

それからはいろいろな植物の観察ラッシュでした。道端の草、休耕田や畦道にある草花、土手に咲く花々、様々なつる植物などが次から次へと登場しました。手に取り、ルーペで眺め、びっくりし、感嘆し、ちょっと前に聞いたばかりの名前をお互いに言い合って思い出し、の連続でした。草花を中心に100種以上の植物に接したことになり、記録が追いつきませんでした。



終ってからの振返りでは楽しかった、素晴らしい観察会だった、小さな花が懸命に咲いている姿に感動した、けど疲れたといった感想が寄せられました。  
(倉田 晃)

やさしい病害虫講座 6 貴方は匂いに惹かれますか？ 木村 裕

生物を利用した病害虫防除には、天敵利用のほか、フェロモン（匂い物質）利用があります。

昆虫世界においても人間社会と同じように雌雄の出会いが子孫繁栄の基本です。小さな虫が広い野原や山の中で相手を見つけることは至難の業です。婚活支援やコンパがありません。そのため、昆虫のメスは性フェロモンを発散させてオスを呼び集める手段をとっています。人間社会でもフェロモンたっぷりな男性陣を集めている女性もいますが、虫の性フェロモンにはかなわないでしょう。

性フェロモンは虫それぞれの種類ごとに異なっており、相手を間違えることはありません。人間の目には同じように見える虫でも虫の目からははっきりと区別でき、相手を間違えることは決してありません。

そこでこの性フェロモンを使ってオスを一網打尽にあつめようよとよからぬ？方策を考え出した研究者がいます。たくさんの（万単位）ヨトウムシを飼育し、蛹から羽化したばかりのメスの蛾を捕まえ、お尻の部分を取り取って集め、そこから性フェロモンを抽出しました。この成分を分析して匂いの成分を明らかにし、化学的に合成することに成功しました。そしてこれが製品として売り出され、農家にも利用されるようになっていきます。現在、この性フェロモン剤はヨトウムシなど蛾の仲間にも利用されています。

たしかにこの合成された性フェロモン剤を畑に配置すると沢山のオスの蛾が集まり、目論見通りの成果が得られたようです。万歳といったとこ

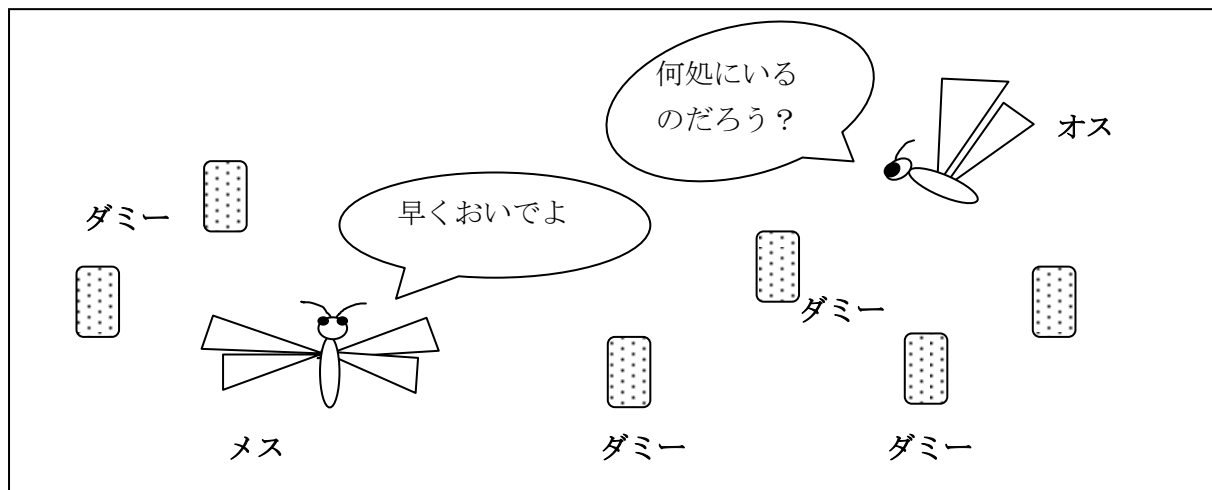
ろですが、はたして実用的な効果はあったのでしょうか？

数量的にはたしかにたくさん集まりましたが、畑全体から見ると 10%にも達せず残りの 90%のオスがメスと交尾するので、次の世代の虫の密度はほとんど下がりませんでした。

そこで研究者は頭をもう一捻りして、この合成性フェロモン剤を畑全体にばらまくことを考えつきました。畑全体にダミーのメス成虫がうようよいることになり、オス成虫はその匂いに惑わされてお目当てのメス成虫が何処にいるのか分からなくなり、うろうろする間に疲れ果ててどうでもいいやと投げ出してしまいます。その結果、交尾できたメス成虫が少なくなり、次の世代の密度が大幅にさがることが分かりました。肉眼ではなくて匂いに頼っている悲しさですね。お気の毒に。

この方法は狭い範囲で行うと、周りの地域との交流がありますので、卵をいっぱい持った新たなメス成虫が周りからなだれ込んで来ますので防除効果はあまり期待できません。それゆえ実施には数ヘクタール単位での広い面積で行うのが必須条件です。野菜や果樹の大産地ではこのような方策を取り入れて、害虫の密度抑制に成功しているところもあります。

また、この性フェロモン剤は蛾の発生時期を把握するには非常に有効で、害虫の防除適期（小さな幼虫が発生する時期）を予想するのに便利で、効率的な防除に非常に役立っています。



## 鳥シリーズ 小田久美子

### モズ

都会派ではなく、かと言って森林派でもなく、見晴しの良い河川敷・農耕地などを好んで生活の場に、スズメのように人家に巣をかけたり、ツバメのように益鳥として大切に愛されることもなく、かといって全く無視されることもない不思議な存在です。

木々の葉が色づく頃けたたましいモズの高鳴きを聞くと、農耕民族としての日本人は秋の気配を感じる手掛かりとして来ました。人里の鳥として人との距離をほどよく保ってきた代表的な鳥で、古来から詩歌に謳われ、数々の物語に登場し、絵画にも描かれて、宮本武蔵の国の重要文化財「枯木鳴鳩図こぼくめいげきず」は特に有名です。

冬は雌雄ともに別々の縄張りを持ち、杭の先や木のとっぺんなど良く目立つ所で周囲を見渡しながら、長めの尾をグルグル回し「キチキチ キー キー」と縄張りを宣言します。

分類上はスズメの仲間で 20 cmとスズメより少し大きく、ぽっちゃりした体で円らな黒目が可愛い小鳥ですが、生態的には猛禽類に近く嘴は鋭く尖り先がかぎ状に曲がって、獲物を切断したり引き裂いたりするのに適しています。

食べ物は土中のミミズやカエル・魚・昆虫・小鳥などを捕まえる他小さな木の実など巾広く、ときにはへびなどにも果敢に襲い掛かる気性の荒い鳥です。

カワセミと同じ所にいる個体では、ダイビングして魚を捕るのを目撃されています。江戸時代の『本草綱目啓蒙』にはタカの仲間とされ、地方では“モズタカ”“タカモズ”の名で呼ばれていたようです。

小春日和に林の傍を歩いていると「イカル」や「ウグイス」など他の鳥の物真似をしている声に初心者の頃はよく騙されましたが、経験を積むと微妙に違う歌声が解るようになりました。メスにアピールをするために練習していたのでしょうか。求愛ダンスをする時に他の鳥の鳴き声を織り交ぜ

て優しく謳います。

メスはこのディスプレイで品定めをしオスの縄張りを回ります。オスの歌声は多彩でそのことから“百舌鳥”とも呼ばれます。高さ 1~2m 程の枝やササ・ノイバラ・有刺鉄線などに獲物を刺しておく「モズのハヤニエ」は有名で、冬に備えるための貯蔵行動としても良く知られていますが、在庫が多くあるのか、忘れてしまったのかそのままになった物もあります。

つがいになると今度はメスが子供じみた声と身振りでオスに甘えてみせます。オスは繁殖期間中何度も求愛給餌をします。それを見るととても夫婦仲睦まじいように見えますが最近の DNA 分析によると、一巣の中にパパ違いのヒナが確認されていてメスの浮気が発覚しました。奈良支部長だった川瀬氏と私との 2008~2010 年 2 年間のならやま調査記録を出して見ると、モズは 10 月~2 月に一羽(まれに 2 羽)とありました。今は里山の景観が大きく広がり皆さんが土を掘り返すのをモズさんも楽しみにしていると思います。



モズ♂ (山縣)



モズ♀ (山縣)





## 真言密教経典「理趣経」と十七清浄句

歴史文化クラブ

中井 弘

真言宗関係の経典は数多くありますが、もっとも大切な根本経典は「大日経」と「金剛頂経」です。読誦経典は少数に限られていますが、その中で「理趣経」や「般若心経」「観音経」はよく読まれているお経です。

般若理趣経の初段には「十七清浄句」という17の句があり「男女の愛欲は清浄なる菩薩の位である」と説いているのです。

なんで・・・かねてから疑問をもっていたところに、川井さんから理趣経について投稿の依頼がありました。これを機会にいくつかの文献を調べましたが、浅学の身には難解でした。誤りがあればご指摘を。

804年31歳の空海が純粹密教の体系を学ぶために留学生として遣唐使に随行して入唐し、密教の全盛期であった大唐の都長安において、青龍寺の恵果阿闍梨（三代の皇帝に灌頂した国師で密教の正統継承者）から密教の秘法すべてを伝授され、門人千人の中から唯ひとり最高位の傳法阿闍梨位を授けられました。

長安滞在の2年間に、金剛頂経はじめ膨大な密教経論や自身で書写した経典、曼荼羅・法具などを蒐集し日本に持ち帰りました。



その中の「理趣経」は、最澄の借経申込みを空海に厳しく断られ、その後空海と最澄の決別の原因になったことでも有名な経典です。真言密教の神秘的な奥義が書かれており、理解するには理論ではなく、修業しなければわかるものではない、最澄のような合理的理性では理解できない、

というのが空海の考えでした。

紀元前5世紀、インドの釈迦は人間の世界を「苦の世界」として捉え、その苦の原因は「愛欲」にあるとし、愛欲の火を消せば苦悩が治まり静かな悟りが得られると説きました。

その後「龍樹」が大乗仏教を発展させ、紀元2世紀になって愛欲や禁欲に捉われない「空」の思想が出てきました。

5世紀以降になると、大乗を受継ぎながら神秘的体験と儀礼を重視する密教が盛んになります。

後漢時代から宋までおよそ1000年にわたり、これらの仏典が中国に伝わり漢訳されました。

密教の大日経では、人間はありのままの姿から現生で「即身成仏」でき、宇宙の中心である大日如来と一体になれると説きました。

また、重要なテーマである煩惱を正面から扱い、現生を肯定、愛欲を肯定する教えを説き始めます。その中心経典が金剛頂経系統の理趣経です。空海はこのような理趣経をもって、真言密教の主要経典にしました。

いまでも真言僧が日常的に唱える「般若理趣経」は17の章節で構成されており、第1章の「大樂の法門」（金剛薩埵の章）には、下記十七清浄句が説かれています。

そもそも人間の営みは、本来は清浄なものであるという、自性清浄の思想が根本にあります。

1. 妙適清浄句是菩薩位（男女交合の妙なる恍惚は清浄なる菩薩の境地である）
2. 欲箭清浄句是菩薩位（欲望が矢のように速く激しいのも清浄なる菩薩の境地である）
3. 触清浄句是菩薩位（男女の触れ合いも清浄なる菩薩の境地である）
4. 愛縛清浄句是菩薩位（異性を愛し固く抱き合ひのも清浄なる菩薩の境地である）
- 5～17. 欲心、愛、安楽、見えるもの、音、香り、味も、それらの世界はすべて清浄であり菩薩の境地である。 吽「ウーン」

秋茄子の実生栽培わが身越す

鈴木末一

実生からの茄子作り。大収穫、大成功。作者の労が報われる。為せば成す(ナス)の感慨一入。

童らの植えし黒米垂るる秋

鈴木末一

恒例の小学生たちの米作り。歓声が聞こえる。

この体験を稲作文化の継承に繋げて欲しい。まずは田の神に感謝。

月の秋雲一片の寄り添ひて

阿部和生

四季を問わず月は美しい。日本の自然美を代表する。

「雪月花」の一つ。一朵の雲は一幅の絵を演出。ハラシヨ。

兩名月語り部の輪の猪口弾む

阿部和生

♪雨降りお月さん雲の上♪こんな夜、酒杯を交わすのも風雅

なもの。月の兎さんここまでおいで、これは大人のメルヘンだ。

秋の嬰粟けし五右衛門石に寄り添える 古川祐司

歴・文近つ飛鳥下見。この地ゆかりの大盗賊石川五右衛門。

都でしくじり腹いせに石を叩いて窪みが出来たと言う。

野道の嬰粟が嗤つてらア。盗賊と花のコラボが面白い。

新墾の畑秋耕の土煙り

古川祐司

里山第五地区の整備。作者の情熱が牽引する。

乾いた荒れ地に芋・蕎麦畑が育つ。余りアクセルを

踏まない様に。



俳句百景

監修 川井秀夫

あつもの

羹の椀の温みやいなし雲

西谷範子

「羹」は難読漢字ですが熱い吸い物の意。

料理好きの作者は、椀の温みに秋を感じたのでしょうか。

はちす田にはや結実の虚空かな

栗本一代

「はちす」は蓮の別名。蜂の巣に似る事から、草津水生植物園

の一句。蓮は空に向けて実を飛ばす。ミサイルの様に。

遠き日のふるさとの径望みちの月

羽尻嵩

望郷の一句。少年期村はずれの径で見た満月が忘れられない

とは作者の弁。誰かお連れは居なかつたの。

リンゴの様な赤い頬つべの子でも。

長き夜の布団一枚欲しくなり

八木順一

急激な気温の変動にはご注意。主婦は寝具・衣装の入れ替えは

大変。お父さん、暫く夏布団で辛抱して。ハイハイ。

花生姜の芳香にぐらり深呼吸

川井秀夫

里山の花苑。Nさんから切花として頂く。食台に飾ると香りが

充満。ひととき深呼吸。里山の何処にあるの、この男、花音痴なり。

人生の味を秘めたる酸橘すだちかな

川井秀夫

Fさん自庭のすだちを毎年賞味させて頂いている。

酸味と香りが抜群。人間ならではの至福の味。

## 癒しの散歩道



### 更け行く晩秋に自然を訪ねて

谷川 萬太郎

深まりゆく晩秋の夕暮迫る頃 何故に物悲しき忍び寄りて人肌恋し  
 静けく森にそっと足踏み入れば 眩く自然の囁きが切なの心に聞こゆ  
 冷い秋風に晒される枯れ葉よ やがて紅く染めにし紅葉色の錦なり  
 悲喜繰り返す季節の向うには 冬の花や風や山里に出会う仲間がいる

季節変われど心優しいその姿 人に寄り添うように語りかけて来る  
 寒けき空を両手でそっと包めば 心温まる自然の愛に我が心揺さぶられ  
 肌刺す寒風に震える落ち葉よ やがて鮮やかに染まる銀杏並木の黄金色  
 苦楽繰り返す季節の向うには 冬の空や海や星達に出会う仲間がいる

## ならやま茶論

### 「取り込み中」

竹本 雅昭

姐さん乙： キャー！ 油虫・・・エイッ！  
 エイッ！

ゴキ： ムムム・・・ もうアカン。

兄貴蜘蛛： なんで急に明るいところへ放りだす  
 のん、目がクラクラするがな。おまけに  
 あのゴキは今夜ハンターする予定やった  
 のに全く。

姐さん甲： あゝそこを平らにしてんか、その  
 ごつい竹の根も取って、ちゃっちゃっ  
 としてや。

翁達： はいはいこれでよろしいでしょうか。

姐さん甲： 次にステンの流し台と調理台置いて  
 見てんか。よっしゃ、そんな感じで  
 レイアウトOKです。

姐さん丙： 奥にゴチャゴチャようけあります  
 がな、こんなボロや使わんもん始末せ  
 な。あつ、またゴキが逃げて行く。

子分蜘蛛： くわばらくわばら、ややつあんな  
 ところに兄貴が不安そうに、大丈夫でっかー。  
 なんですこの騒ぎは。

兄貴蜘蛛： あのな、調理器具をこのテントへ  
 移動するんやと、そいでえらいお働きや。  
 お前も気を付けなゴキみたいにあの世行  
 きややで。

子分蜘蛛： 最近は少し腹も出て来たし、この  
 隙間にジッとしとこ。早よ人々帰らへん  
 かな。

兄貴蜘蛛： おい、多分ゴキも減るやろから  
 今迄みたいに大食いしたらあかんで。  
 俺の指示通りにせいよ。ええな！

子分蜘蛛： へっ！



# ならやまプロジェクト

豚汁が始まります。お椀とマイコップを！

## 活動予定日

10月	2 (木) 23 (木)	9 (木) 30 (木)	16 (木)
11月	6 (木) 27 (木)	13 (木)	20 (木)

- ◆ 場所：奈良市奈良坂町・佐紀町の県有林 [ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に広がる里山林地]
- ◆ 集合：現地ベースキャンプ・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時



10月2日

### <里山 Gr>



「ならやま里山林」  
カシナガ被害木（レベル3）の残り伐採。  
カシナガ被害木（レベル2）の伐採。  
上記伐採木を活用（薪材料に玉切り・集積）。

### <エコファーム Gr>

茄子の撤去と後片付け。チップと堆肥の散布。

### <景観 Gr>

BC付近の草刈り。山野草園の柵造り。  
水生生物の調査。池の整備。

10月9日

### <里山 Gr>



「ならやま里山林」  
カシナガ被害木（レベル2）の伐採。  
上記伐採木を活用（薪材料に玉切り・集積）。

### <エコファーム Gr>

水稻の稲架け用竹の準備。

### <景観 Gr>

佐保自然の森の草刈り。  
黄菖蒲園の草引き。花ナス撒収・畑準備。  
池の整備。

10月16日

### <里山 Gr>



「ならやま里山林」  
カシナガ被害木（レベル2）の伐採。  
上記伐採木を活用（薪材料に玉切り・集積）。

### ◆ アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分
  - ② 近鉄奈良駅：バス13番乗場 115系統  
8：28発 高の原行（平日）
  - ③ 近鉄高の原駅：バス1番乗場 115系統  
8：36発 JR奈良駅西口行（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車  
徒歩7分

- ◆ 携帯品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は、現地で用意）
- ◆ 環境保護のため、お椀、箸コップなどは各自ご持参ください。
- ◆ 連絡先：木村 裕（電話：0742-46-4958）



### <エコファーム Gr>

豌豆畑・玉葱畑の準備。植栽果樹周辺の草刈り。

### <景観 Gr>

BC駐車場付近の草刈り。千日紅撒収・畑準備。  
寒咲花菜種まき。水生生物の調査。池の整備。

10月23日

### <里山 Gr>



「ならやま里山林」  
カシナガ被害木（レベル2）の伐採。  
上記伐採木を活用（椎茸楯木用に葉を枯らす）。

### <エコファーム Gr>

稲刈り(佐保台小5年生・会員)。  
蕎麦ハサ掛け用架設。

### <景観 Gr>

佐保自然の森の草刈り。矮性コスモスの撒収。  
カンナの植え付。池の整備。

10月30日

### <里山 Gr>



「ならやま里山林」  
カシナガ被害木（レベル2）の伐採。  
上記伐採木を活用（椎茸楯木用に葉を枯らす）。

### <エコファーム Gr>

脱穀作業。植栽果樹の施肥。  
蕎麦の収穫（刈取り、ハサ掛け）。

### <景観 Gr>

ならやま会館前の草刈り。春花の種まき。  
苗の植え込み。水生生物の調査。池の整備。

 **行事案内** part 1

**10月例研 一泊研修旅行**

**秘境・芦生の森  
ネイチャートレッキング**

「芦生の森」は、日本海に注ぐ由良川源流域の京都府美山町にあり、滋賀、福井の県境に位置します。植物や動物、昆虫などの生態が豊富で、関西では大峰山系に次ぎ原生的植生を残していると言われていています。京都大学の演習研究林になっており、「植物を学ぶものは一度は芦生演習林を見るべし」と言う植物学者もいるとか。

広大なエリアに専用バスで入り、専属の地元ネイチャーガイドの案内で自然観察を行います。歩行時間約3時間、歩行距離約4km、標高差120mで歩きやすく心地よいハイキング道です。

- ・第一日午前中は皇室ゆかりの名利、臨濟宗天龍寺派「常照皇寺」を訪ね、午後は国の重要伝統的建造物保存地区の日本の原風景と言われる「美山かやぶきの里」を散策して秋の一日を楽しみます。
- ・第二日「芦生の森」(上谷・杉尾峠コース)トレッキングの後、「ひよし温泉」に立寄ります。

「高の原駅」前着予定 6:30頃

- ・実施日；10月20日(月)～21日(火)
- ・持ち物；ハイキング装備(ザック、トレッキングシューズ、雨具等) 双眼鏡・図鑑(あれば)
- ・宿泊；「芦生山の家」(一般旅館)
- ・集合；近鉄「高の原駅」前 am8:30
- ・会費；23,000円
- ・定員；先着順32名(10月6日一次締)
- ・幹事；川井、青木、田矢、寺田
- ・受付；寺田



**歴文10月研修会 御案内**

しながだに  
**「磯長谷の梅鉢御陵を訪ねる」**

二上山の西山麓から石川の流域にかけて広がる磯長谷から羽曳野にかけての一带「近つ飛鳥」(河内飛鳥)には、古墳時代中期頃から渡来人が定住し、また和珥・息長等・蘇我の有力豪族が勢力を張っていたと言われます。6～7世紀に天皇家の外戚となって勢力を伸ばした蘇我氏は、磯長谷一帯を奈良の飛鳥に並ぶ根拠地として支配しました。蘇我氏の影響下にあった天皇(敏達、用明、推古、孝徳)の御陵や聖徳太子廟もこの地に設けられました。今回は、梅鉢古墳を中心に磯長谷の歴史を訪ねます。

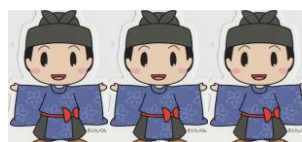
また石川の流域は石川源氏発祥の地で、総氏神の壺井八幡と、八幡太郎義家ら源氏の棟梁3代の墓と菩提寺の通法寺跡があります。

マイクロバスでこれらを探訪した後、『近つ飛鳥博物館』に立ち寄り、秋季特別展「箸墓以降一邪馬台国連合から初期ヤマト政権へ」の歴史展示を見学します。

なお、マイクロバスを利用しますので、先着順に27名が定員になります。希望者はメールまたはFaxにて事務局までお申し込みください。

《実施要領》

- ・日時；10月8日(水) 8:30集合
- ・場所；近鉄奈良駅東 中小企業会館前
- ・参加費用；2500円(別途 入館料等)
- ・定員；27名
- ・携行品；昼食、飲み物等
- ・担当世話人；坂東、古川
- ・申込先；歴文事務局 古川祐司宛





# 行事案内 part 2

10月19日(日) スタッフ募集!!

## 花とみどりの楽校 (さとやま編)

生駒市は、南北 15 km 東西がおおむね 4~5 km の細長い地形の都市です。戦後数万人の人口が現在では、奈良県下 3 番目 12 万人余まで増加しています。11 市町村と境界を接するという異常な地形は、北の淀川から大和川の南までの生駒山系を背にした都市である事から生じました。平成 21 年奈良県下でも突如現れた[カシノナガキクイムシ]による「ナラ枯れ」が、京都から南進、枚方、交野、四条畷に出来し今日生駒市を脅かしています。生駒市の里山は、古代より優雅に緑を湛えてきました。その里山が、放置、荒廃に瀕しています。



生駒市民の方々がそうした状況を改善しようとしています。奈良市西部の立派な山容は、四季それぞれの表情で私達を癒します。「生駒山を健康に」お手伝いの一つとして「生駒市市民講座 26 年度研修・第 4 回」を受託しています。当日受講生 20 名と関係者・お世話係が来訪され、先進取り組み地の視察と間伐体験に取り組みられます。時間は AM9:30~PM3:30 までの予定です。内容は、これまでの里山林整備などを伝え、その後第 5 地区で間伐



施業体験を指導するものです。このスタッフを 2 人一組で 3 組・6 名の方が必要です。当日ご都合の付く方 杉山耕二&阿部和生どちらかへ、ご連絡下さるようお願いします。(文責 阿部 和生)

## 仲間入りしました

皆さんよろしくお願ひします

木下 覚巳

昨年の佐保川地区自治連合会総会の折、鈴木さんと知り合い、今年 3 月に開催された「佐保川地区ふれあい会館」10 周年記念の催しの時、竹で門のアーチを作るのに「奈良・人と自然の会」の活動場所に同行しました。その時に会の活動について色々聞かせてもらいました。毎週木曜日に約 60 名ほどの会員の方々が活動をされていることや楽しい催しもあると聞き、8 月吉日に入会させていただきました。

私も自治会長として 22 年余り勤めさせていただき、大勢の方々と知り合い、友人も沢山できました。入会させていただき楽しみにしていましたが、週の内 4 日間マンション管理の仕事を頼まれ、毎回出席することはできませんが、木曜日の空くときには必ず参加させていただきますので、何分よろしくお願ひいたします。



## 仲間入りしました

坂口 政美

三ヶ月ほど前から、この里山でツリークライミングの練習中に長谷川さんと知り合い、この会を紹介していただきました。

私は、絵と自然が好きですが、最近アーボリストなる職業に興味を沸き、調べているうちに、特殊な仕事だと知り、まずは道具と木に慣れることと、この会の自然に対する接し方が勉強になると思ひ、入会させていただこうと思ひました。

よろしくお願ひします。



# 行事案内 part 3

## 秋のめぐみだ！ おイモをほろう！

いよいよ本格的な秋、絶好の行楽シーズンです。秋のならやまでの公開イベントです。

是非スタッフとしてご参加ください。また気軽にご見学ください。

- ①日時 平成26年10月18日(土) 10～15時  
雨天の場合は翌日19日(日)に実施します。
- ②お客様 佐保台小学校と県下の子供達と保護者  
50名のみなさまを予定しています。
- ③内容 午前：ならやまの探検(自然観察)  
昼食：豚汁の提供  
午後：芋ほりとイモのコンテスト

ならやま探検は、周遊コースの自然観察をしながら、要所にクイズやゲームも用意して楽しんで頂きます。

今年は芋畑をさらに東へ移した新地で、待望の鳴門金時が大きく育っています。9月中の試掘では立派なおイモが育っており美味しそうです。

担当者一同創意工夫を凝らし鋭意準備中です。  
(事務局：塩本勝也)

## 11月歴史文研修(予告)

額田王の生涯を訪ね忍阪多武峰街道を巡る！

記紀・万葉の故地 忍阪に晩年の額田王を想い、紅葉の談山神社を訪ねます。

- 1. 日時 平成26年11月11日(火)
- 2. 集合 中小企業会館前(近鉄奈良駅東)  
午前8時30分 (マイクロバス利用)
- 3. 行程 忍阪街道→忍坂坐生根神社→  
舒明天皇陵→鏡姫王墓→大友皇女墓  
→石井寺→栗原寺跡→倉橋池ふれあい公園(昼食)→談山神社他  
(JR桜井駅南広場でも乗降出来ます)
- 4. 参加費 3,000円程度
- 5. 世話人 杉本、藤田

定員の制約がありますので、お申込みはメールまたはFaxで事務局までお申込みください。歴史事務局 古川

## 11月・月例研修会 甘樫丘の自然観察会(予告)

下記により実施いたします。

自然と歴史の両面から魅力ある甘樫丘で自然観察を楽しみましょう。多数の皆さんのご参加をお待ちしています。

- 1. 日時：11月18日(火) 10時～15時
- 2. 場所：甘樫丘⇒歴史公園館 方面
- 3. 持参物：昼食、飲み物、観察用具、雨具
- 4. 集合：近鉄・橿原神宮前駅東口に9時30分
- 5. 担当：自然教室チーム・倉田、辻本
- 6. 詳細は11月号をご覧ください。

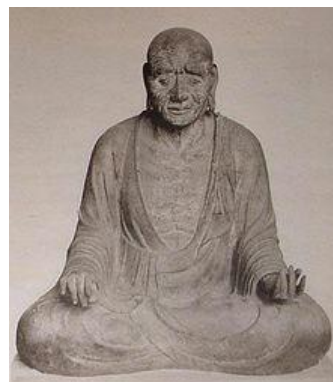


## 奈良学クイズ

【問】次の画像の人物名をお答えください。

(1)

(2)



※ 応募方法：メール(広報)  
又はFAX

※ 応募締切：10月4日(土)

※ 9月号・正解

(1) 隆光大僧正 (2) 玄昉

平成 26 年・9 月度幹事会報告

- ◆日 時：平成 26 年 9 月 2 日（火）17:00～19:20
- ◆場 所：奈良市中部公民館
- ◆出席者：幹事 18 名、顧問 1 名
- ◆案 件：
  - ①会員動向、会計報告（会員は 153 名）
  - ②月例研修会、自然教室、イベント等の活動報告
  - ③ならやま：8 月度活動実績報告、9 月度活動予定
  - ④10/2 奈良県：景観サポーターの受入について
  - ⑤10/18 佐保台小 芋ほり・山遊びについて
  - ⑥GGプロジェクトの次年度継続について
  - ⑦林野庁交付金事業の進捗状況について
  - ⑧10/19 生駒市：里山林の間伐、除伐体験
  - ⑨ネイチャーなら 10 月号の編集について
  - ⑩新春講演会の講師とテーマ選定について
  - ⑪9～11 月の行事予定の確認、その他

以上



ペン画に寄せて 境 寛

ペン画花歳時記を始めて、とうとう 60 枚目になりました。

日本最古の国道交差点、難波と飛鳥を結ぶ日本最古の官道「横大路」と藤原京と平城京を結ぶ「下つ道」が交わる橿原市北八木町の交差点がこの場所です。

西国三十三所名所絵図に描かれた「東の平田家（旧旅籠）」が最近整備され、八木札の辻交流館に生まれ変わりました。

◆ 申し合わせ事項 ◆

- ※ ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の降水確率が午前60%の場合は、中止になります。
- ※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時活動日とします。
- ※ 種々ご都合もあるかと推測されますが、【ならやまプロジェクト】推進のためにもよろしくお願いします。



「激甚」「集中的」「記録にない」等の言葉が飛び交った夏も過ぎ、凌ぎやすい季節となってまいりました。

里山のプロジェクト活動も一日バージョンに切り替わり、スピードアップしていくことと思います。



編集チームでは、月1回のミーティングを行い、日頃の思いを率直に出し合える意見交換の場となるように心掛けています。会員の皆様の「声なき声」も大切にしていかなければなりません。ご忌憚のないご要望などをお寄せいただければ、出来る限り紙面に反映させていく積もりです。1ヶ月は、あっという間に過ぎていきます。手帳に予定が目白押しの中での編集作業ですので、ご協力よろしくお願いします。



ボランティアセンターの輪転機が更  
新され、2色刷りが出来るようになりました。先月号でお気づきのことと思います。赤色として読み取る色調に幅があり、黄色は赤色系統になります。花の色で印刷時の変化はどうか？ということもありますので、今月号からは、表紙と最終ページだけを2色刷りにしてお届けすることにします。（里山人）

会報誌【ネイチャーなら】・第153号

発行：奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

<http://www.naranature.com>



11月号の印刷・発送予定について  
日時:平成 26 年 10 月 29 日(水)am9:00～  
於：奈良市ボランティアセンター



編集チーム・代表 鈴木 末 一